

## 牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)に 注意しましょう!! ~PI牛対策~



### BVD-MDって何?

BVDウイルスの感染による、主に牛の病気です。健康牛に感染した場合は、一過性の発熱、呼吸器症状及び下痢を呈するか、もしくは、感染のみで症状は出さず、その後、終生免疫を獲得します。

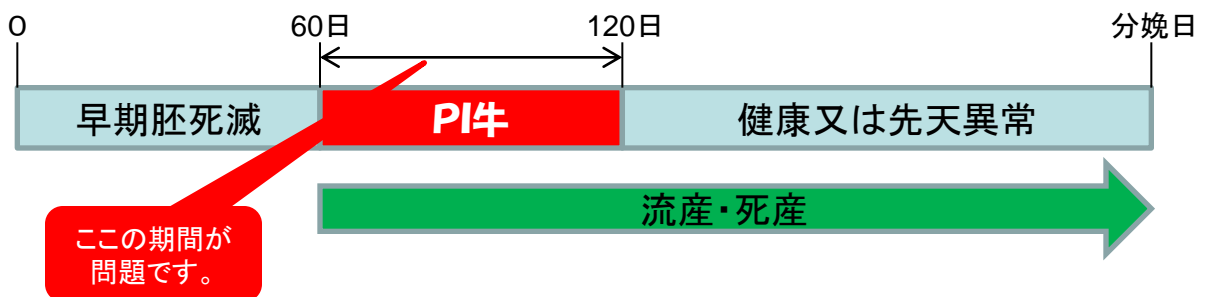
これだけなら、それほど大きな問題はないのですが、問題となるのはPI牛です。

### PI牛って何?

妊娠牛がBVDウイルスに感染すると容易に胎盤から胎児に感染し、胎子の日齢により流産や先天異常が起こります。特に胎齢100日前後での感染では胎児の免疫機構ができあがっていないため、感染したウイルスを自己と認識し抗体を作らず、PI牛(持続感染牛)として娩出されます。

このPI牛は、死ぬまで大量のウイルスを出し続けることとなります。

### 母牛がウイルスに感染した時期で胎子の運命が決まります





## 何が問題なの？

☆PI牛は、死ぬまでずっと糞尿や鼻汁から大量のウイルスを排泄し続け、他の牛にウイルスを感染させます。妊娠牛がウイルス感染した場合は、胎子にも感染し、PI牛が生まれる可能性があり、牧場は汚染され続けます。

☆PI牛の子は必ずPI牛となります。また、PI牛は通常、発育不良や慢性的な下痢および呼吸器症状などを示し、また、複合感染や日和見感染を起こしやすく、治療効果は低いです。

☆PI牛の母牛はウイルスに対する抗体を作れるので、感染してもしばらくするとウイルスは排除され問題はありますが、見方を変えると、何でもなさそうな妊娠牛を買ってきたら、うまれた子牛がPI牛だったという可能性があります。

逆に、PI牛と知らずに販売してしまった場合、他の農場に感染を広げる原因になります。

## どうしたらいいの？

☆まずは、ワクチン接種をして、感染を予防しましょう！

ワクチンは、生と不活化がありますが、生ワクチンは妊娠時期に接種すると、逆にPI牛を作ってしまう可能性があるので注意しましょう。(ワクチンプログラムは別紙参照)

☆PI牛を農場へ入れないようにしましょう！

PI牛そのものが入ってくる場合と妊娠牛の腹の中に入ってくる場合があります。育成牧場は、多くの農場から種付け時期の牛が集まってくるため、PI牛が1頭でもいると、胎子期の感染(PI牛の産出)の可能性が高くなり、もっとも気をつけなくてははいけません。預託時のワクチン接種や下牧後の隔離と分娩後の検査が重要です。また、外部から牛を導入する場合は、ワクチン接種状況等を確認してから導入し、必要があれば導入時に検査を実施しましょう。

☆検査をしましょう！

PI牛が見つかったら、その牛をとう汰するとともに同居牛に感染していないか、他にPI牛がいらないか必ず確認しましょう。また、販売する場合は、他へ感染を広げないためにもできるだけ検査をして陰性を確認の上販売しましょう。

★検査の実施については、家畜保健衛生所へご相談ください。

おかしいな？  
と感じたら

東部家畜保健衛生所 TEL 0475-52-4101  
FAX 0475-52-3335

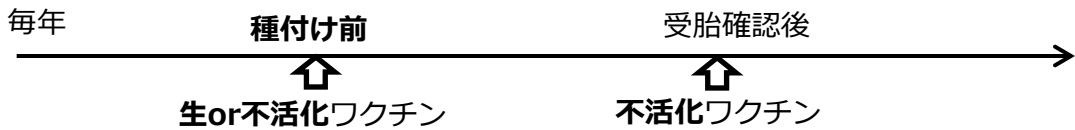
※休日、夜間は転送されますので  
必ず5回以上のコールをお願いします。

# 牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)ワクチンプログラム

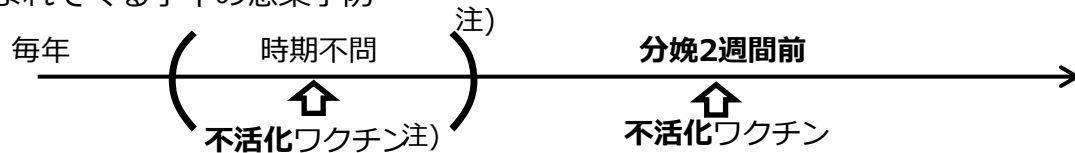
## ●搾乳牛／繁殖雌牛…年1回の不活化ワクチンの接種が基本です

\*年1回の不活化ワクチンの接種の時期は予防目的により異なります

- ①農場全体の感染防止…年1回不活化ワクチンの一斉打ち
- ②PI牛の生産予防（ワクチンによるPI牛の生産予防効果は70～80%程度ですが、生ワクチンの方が胎子に対する防御能があるとされています）



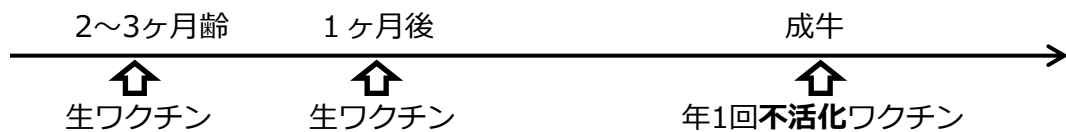
- ③生まれてくる子牛の感染予防



注)通常は年1回の接種だが、( )内の時期にも接種すればなお良い

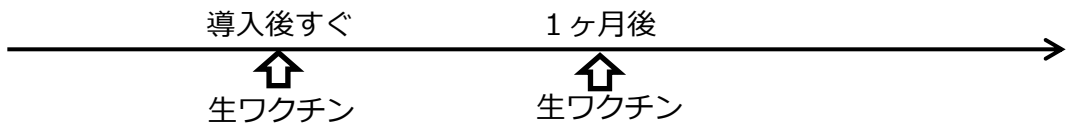
## ●繁殖候補牛

- ・自家育成の場合…子牛の時期に生ワクチンを2回、成牛になったら必ず年1回不活化ワクチン\*を接種します。



- ・導入の場合…導入後すぐに不活化(妊娠していなければ生)ワクチン、その後は必ず年1回不活化ワクチン\*を接種します。

## ●肥育牛…生ワクチンを2回接種します



\*上記は推奨されるワクチンプログラムですが、実際にワクチンを接種する際はかかりつけの診療獣医師に相談して下さい

**危険！！ 妊娠牛には必ず不活化ワクチンを使用して下さい！！**

**妊娠牛に生ワクチンを接種すると流産や、PI牛が生まれてくる事があります**

また、子牛の移行抗体の残留時期に接種した場合や、ワクチン接種時に牛の調子が悪かった場合、接種した牛がPI牛の場合にはワクチンの効果が得られないことがあります。